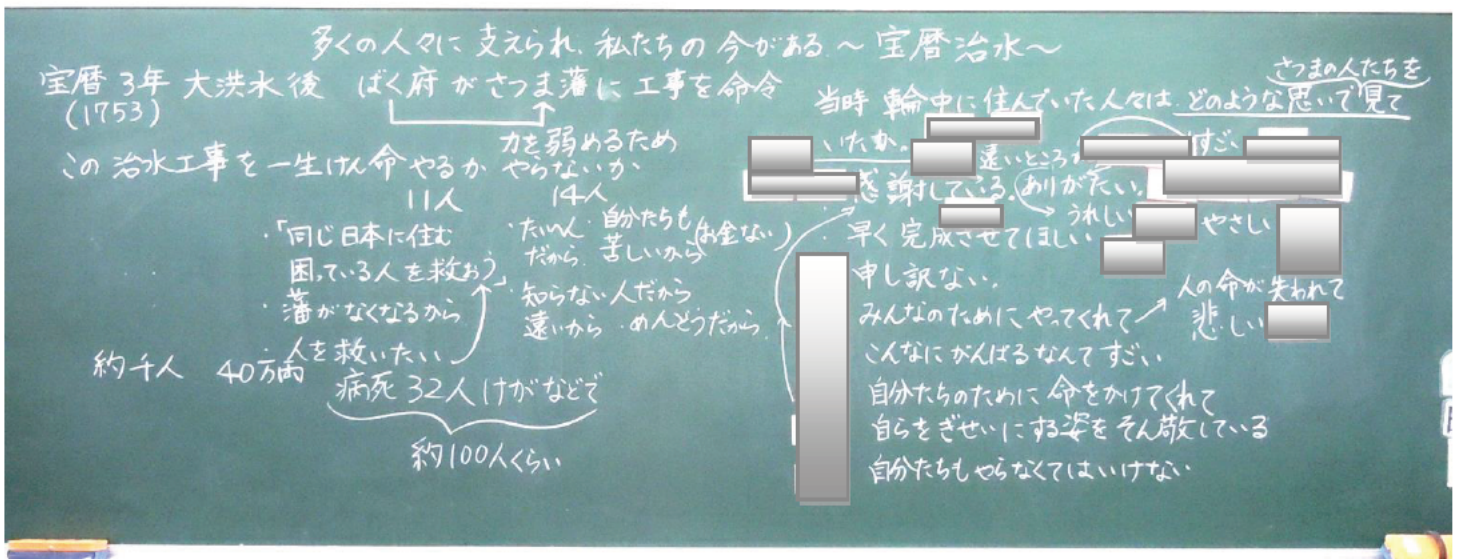


「三重県 心のノート」活用事例

校種	小学校	学年	5年	内容項目	2－(5)
主題名	先人の努力を知る				
資料名	多くの人々に支えられ、私たちの今がある 木曾三川と治水 「三重県 心のノート 小学校5・6年」(三重県教育委員会)				
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 資料の内容をもとに、多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っている日々の生活やその中で自分たちが生きていることに感謝することができる。 将来、自分には何ができるのかにつながるような思いを持つことができる。 				
展開	学習活動と主な発問			指導上の要点	
	<p>1 資料を読み、木曾三川の治水「宝暦治水」について知る。 『学習のめあて』を読み、宝暦治水のことを知ろう。</p> <p>2 資料「宝暦治水」を読み、考えてみよう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">(発問) 木曾三川の流域でたびたび水害が起こっていたのは、どうしてだろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> 下流部で合流・分流を繰り返していた。 木曾三川が複雑に入り乱れている。 </p> <p>3 自分の命を犠牲にしてまで治水工事をした人々の思いに触れる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">(発問) 故郷から遠く離れた場所での工事に向かうとき、平田靱負はどのようなことを考えていたでしょう。</div> <ul style="list-style-type: none"> 同じ日本に住む、困っている人を救おう 早く行ってあげたい 自分たちの名誉のため、頑張ろう <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">(発問) 命がけで木曾三川の工事をした薩摩の人たちのことをどのように思いますか。</div> <ul style="list-style-type: none"> すごく優しいひと 自分のことより他人のために何かをできるところがすごい 誰も命を失うことなく工事が成功すればよかったのに </p> <p>4 たくさんの人たちの苦労や努力の上に、今の私たちの生活が成り立っていることについて考えよう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">(発問) 命がけで人を助けるような仕事にはどんな仕事があるだろう。</div> </p>			<ul style="list-style-type: none"> 「宝暦治水」と「木曾三川分流工事」の二つが挙げられているが、「宝暦治水」を取り上げる。 昔の木曾三川流域の輪中地帯について、画像等で紹介し水害が起こる原因について考えさせる。 幕府から、無理難題を押し付けられたという説については、ここでは取り扱わない。 東日本大震災における災害支援等、困っている人を救いたいという気持ちはいつの時代も変わらないということに触れたい。 本教材の「命がけ」という言葉から、たくさんの人たちの苦労や努力の上に今の私たちの生活があることに感謝するとともに、一生懸命に物事にあたるというとなえができ、これからの自分の生き方につなげていける機会としたい。 	

他の教育活動との関連	<ul style="list-style-type: none">・社会科「さまざまな土地の暮らし『輪中でくらす人々』」。・社会見学で「輪中の郷」に行き、展示物や説明を聞くことを通して、そこでくらす人々の工夫や努力を学ぶ。
成果と課題	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・自分を犠牲にしてまで他人を助けることに価値を感じられなかった子どもたちが、学習活動3を通して、考えに変化が見られた。治水工事を行った人たちに感謝し、自分たちにできることをやろうという思いを持つことができた。・学習活動4では、将来自分が希望する職業を発表する子どもたちがいた。これからの生き方につながる思いだと感じた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・5年生にとって「幕府」や「藩士」などの歴史に関する内容は、理解することが難しいと感じた。・本授業ではそのようには扱わなかったが、東日本大震災における被害に思いをはせられるような展開を考えることが、この資料の意図するところだったのかと授業後、感じた。

◇授業記録【板書】 *  のところはネームプレート



<授業後の子どもたちの感想>

- ・ 自分だったら工事はたいへんだと思うけど、工事をした人にはありがたいと思う。
- ・ 平田ゆきえさんはすごく優しいなと思った。たくさんの人と命をかけて他県の知らない人のために工事をしてすごくやさしいし思いやりのある人だと思った。
- ・ 平田ゆきえさんは「同じ日本に住む困っている人を救おう」と言って、この工事を決意してとても勇気のある人だと思った。
- ・ 感動的でさつま藩にとっても感心した。自らの命をかけて人々を救おうとする姿を尊敬したい。
- ・ 自分の命を犠牲にしてまで工事するのはすごい人だと思った。そういう人を見ていると尊敬する。私もいつか尊敬される人になりたいと思った。
- ・ 遠くまで行って、命がけで仕事することは、勇気のいることだと思った。
- ・ さつま藩の人々はみな勇気があると思った。特にゆきえさんは責任を負って割腹してえらいと思ったけど、悲しいことだ。平田ゆきえさんのような立派な人になりたい。
- ・ 遠くの人を水害から守るために命をけずって工事を成功させたなんてすごいと思った。
- ・ よくやろうという気になったなと思った。遠いし、知らない人だし、お金がなくなるし、最悪なことばかりなのに最後までやり続けてすごいと思った。
- ・ 治水工事を一生懸命やる人の気持ちがよく伝わってきた。
- ・ 平田ゆきえさんみたいに、人の役に立てるような仕事がしたい。
- ・ ぼくたちが平和にいらしていけるために一生懸命にやってくれたのが伝わった。治水工事をしてくれた人に感謝しなければいけないと思った。
- ・ もし工事をしなかったら、私たちはどうなったか気になった。